

平成 30 年度 グループホームふるさと桜 事業計画

【基本方針】

住み慣れた町で、その人らしく、慈愛に満ちた生活を支援する。

【年間目標】

- ① NO 事故を目指す
- ② 『どこにも負けない、ふるさとらしいホスピタリティ』を目指す
- ③ 良質なサービスの提供
- ④ 専門的な認知症ケアの提供
- ⑤ 家族との連携
- ⑥ 地域との連携
- ⑦ 目標稼働率 97%を目指す

【実践計画】

- ① ノー事故を目指す
 - ・ 毎月のケース会議において、ヒヤリハット及び事故の検証を行う。
 - ・ ヒヤリハット及び事故の発生原因を検証し、適切な対応策の立案、評価をすることで、事故の発生を予防する。
 - ・ ヒヤリハット及び事故報告の内容、発生時間、発生場所を毎月集計し、傾向を検証することで、事故の発生を予防する。
- ② 『どこにも負けない、ふるさとらしいホスピタリティ』を目指す
 - ・ 入居者様に対し、「もてなし」の気持ちを大切に、温もりのある援助を提供する。
 - ・ 丁寧語を使用し、利用者様に不快な思いを与えない言葉かけを行う。
 - ・ 職員同士、相手の立場に立った行動をすることで、チームワークの向上を図る。
- ③ 良質なサービスの提供
 - ・ 食事、排泄、運動、水分、口腔ケアを中心に、自立支援に向けた生活支援を行う。
 - ・ 健康管理の実施（毎日のバイタル測定、定期健康診断）
 - ・ 感染症対策（インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒等の予防と発生時における対応の整備および勉強会開催）
 - ・ 定例ミーティング（週 1 回）及び会議（月 1 回）開催を通し、職員全体において情報の共有化と統一したケアの実施。
 - ・ 職員のスキル向上のため、勉強会年間計画、個人年間目標を立て、計画的に職員教育を実施。
 - ・ 第三者評価、自己評価を年 1 回実施し、サービスの評価を行う。

④ 専門的な認知症ケアの提供

- ・ 認知症状の状態確認を定期的（6ヶ月毎）に実施。（アセスメントシート活用）
- ・ センター方式を用いたアセスメントを実施し、入居者様及びご家族のニーズに沿ったサービス計画書の作成（3ヶ月毎）、計画書に基づいたサービスの実施。
- ・ 掃除や洗濯など家事における利用者一人一人に合った役割の提供。
- ・ 毎月、外出行事、食事レクリエーションを提供し、季節を感じる生活支援を提供。
- ・ 法人内外の認知症研修受講の推進。（認知症介護実践研修など）

⑤ 家族との連携

- ・ 行事開催時、ご家族への参加呼びかけを行い、交流の機会を持つ。
- ・ 定期的（6ヶ月毎）にサービス担当者会議を開催。（個別）
- ・ 年2回家族会を開催。

⑥ 地域との連携

- ・ 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域への情報の開示および情報交換を行う。
- ・ 地域交流や社会資源の活用を通し、地域を基盤とした生活が継続できるよう支援する。（地域行事への参加、ボランティアの導入）
- ・ 地域ケア会議、ふれあいのまちづくり協議会、グループホーム連絡会への参加。
- ・ 地域の清掃活動などを通じ、地域貢献に取り組む。

⑦ 目標稼働率97%を目指す

- ・ 異常の早期発見、早期治療により入院者を減らす。
- ・ 待機者の状況確認を定期的実施し、スムーズに入居へ繋げる。
- ・ 地域のケアマネジャーとの連携を密にし、待機者を増やす。
- ・ 定期的な広報誌の配布や見学会の開催を行う。